

<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>みに10分程度でご説明させていただくこととさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>（参加者うなずく）</p> <p>いいですかね。ではそのような要約した説明をまずさせていただきます。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>3 説明</p> <p>それでは皆様のご了解をいただきましたので、質疑応答の時間を確保する観点から、本日も説明申し上げる予定だった内容、それから、特にお伝えすべき点についてのみ概要申し上げ、その他はスライド資料をご覧くださいということで代えさせていただきます。座って失礼いたします。</p> <p>本日のご説明は、先程も司会からありましたように、3月の第1回説明会と6月の第2回説明会でご説明しました内容を振り返り、学校再編案について、そして、小中一貫教育校の教育内容について、新しい学校の施設について、今後について、として説明をさせていただく予定としておりました。</p> <p>まず、これまでご提案しております学校再編案が画面に映っております。そして、新しい小学校と中学校の場所、それから開校時期、新校舎の使用時期について、これまでご説明申し上げてきた内容確認をさせていただきます。学校再編案に至った経緯についても、これまでご説明を申し上げてまいりました。検討にあたっては、次の3点。まず、安全性の確保について、それから校舎の耐久性について、そして、適正な学校規模の確保について検討させていただいたということ。そして、教育委員会が提案しております小中一貫教育校とは、どのようなものであるか。また、小中一貫教育校における教育内容についても、これまでご説明申し上げてまいりました。小中一貫教育校における目指す子供像について、そして、15歳を意識し、9年間の学びで育てる力について、育てたい資質能力について、教育委員会の目指すところを申し上げまして、そうした力を身に付けさせるために、どのような教育を創造していくのか。グローバルな学びの創造の例として、英語教育やキャリア教育の充実について、画面はキャリア教育の説明についてです。次にローカルな学びの創造としての尾道学の充実について、学びの基礎基本としてのモジュール授業の展開について、そして、9年間の学びの集大成としての一例として、学びづくり政策提案発表会の開催について、以上小中一貫教育校での教育内容についてご説明を申し上げてまいりました。</p> <p>スライド18とスライド19は、施設の整備スケジュールについてご説明してきた内容の確認となります。こちらは小学校のスケジュール。そして、スライド20からは、新しい学びを実現するための施設面における工夫について、スライド21からスライド23は、グループワークのためのワーキングスペースの設置について。そして、専門科目教室とホームページの設置について、その他、新しい学びに対応する施設</p>

	<p>の工夫についてご説明申し上げてまいりました。</p> <p>最後に今後についてということで、去る7月24日から8月2日にかけて、関係する6つの学校の保護者を対象に、学校ごとに説明会を開催し、現在、これ昨日からですが、8月7日から8月10日にかけて、小学校区ごとに地域説明会を開催しているところです。</p> <p>ここで7月24日に行いました長江小学校の保護者を対象とした説明会で、どのよう意見が出されたか紹介をしておきたいと思っております。7月24日、長江小学校保護者の方々のご意見、主なご意見ですが、まず、教育委員会の案に賛成であるというご意見、そして、学校再編の決定するのはいつになるかと、学校再編は再編案にあるスケジュールどおり行ってほしいという主な意見を紹介しておきます。</p> <p>また、7月26日、こちらは長江中学校の保護者を対象に説明会を開催しましたが、主な意見としましては、長江中学校のPTA総会でも教育委員会の案に一任したい旨を伝え、了承をもらっているというご意見。それから、開校準備委員会は、いつスタートするのか、早く中身の議論を進めて欲しいというご意見、それからロッカールームの設置であるとか、ワーキングスペースの設置など、新しい教育を踏まえた施設を歓迎する、期待するといったご意見をご意見としていただいております。</p> <p>目指す学校像や教育内容、通学対策などにつきましては、今後も保護者の皆様などのご意見を伺いながら、引き続き、より良いものとなるよう検討を行ってまいります。そして、実際に学校を動かすのは、教職員の皆さんとなります。関係する6つの学校の教職員の皆さんと小中一貫教育校の教育課程の編成や教育内容等につきまして、子供たちにとってより良いものとなるよう議論をしていきたいというふうに考えております。子供たちの安全性の確保の観点、そして、子供たちのより良い教育環境の確保の観点から、地域、保護者、学校教育委員会が力を合わせ、未来を担う子供たちのため、新しい学校を創ってまいりたいと考えております。簡単ですが、以上で説明を終わらせていただきます。</p> <p>4 質疑応答 18:12～</p> <p>教育委員会事務局の説明に対して、質疑を受けたいと思っております。質問のある方、挙手をお願いいたします。</p> <p>住民1</p> <p>当初ですね、この2中学校区の統合ということに対して、問題になっておりました通学対策と。これは、当初は安心安全な通学路を確保しますというふうに聞いておりますが、その進捗状況、あるいは、今後のどういうふうにしていこうかというふうな案がありましたら教えてください。</p> <p>三浦学校経営企画課長</p> <p>はい。ご質問ありがとうございます。通学対策につきましては、これまでも保護者の方々から、それから地域の方々から多くの地区につきまして、ご心配されるご意見はいただいておりますので、それに対して安全確保を図っていきたいということをこれまでも申し上げてまいりました。これまでまずはできるところから始めていこうというこ</p>
--	--

	<p>とで、長江小学校の校長、それから地域、それから保護者の方ですね、PTA会長さん、それから警察、それからこの道路を管理しております広島県等とも合同点検を行いまして、まずは、安全喚起のための道路標示、これを目立つような形でやっ払いこう、それからグリーンラインを延長していこうというような話をさせていただいているところですね。それから、またこれまでも通学バスをですね、ごめんなさい、路線バスを活用した通学支援について検討するというのも申し上げておりますけれども、今後ですね、具体的にどのような範囲の中でそれを行っていくのか、また対象とする学年はどうなるのかといったような、具体的な事柄につきましては、今後、保護者の方々の意見を丁寧にお聞きをしながら検討してまいりたいというふうに考えているところですね。</p> <p>それからですね。先日、長江小学校のですね、保護者の説明会の中でも、このことにつきましてご意見をいただきました。長江通りの向こう側ですね、裏道がございましてけれども、以前はそこを通学路として活用をしていたという、そこでも活用についても検討はできないだろうかというご提案をいただいております。これにつきましては、過去とは異なりまして、なかなか人通りが少ないとか、いろんなちょっと調べてみないと分からないところもありますので、またそういうご意見も踏まえながら何ができるかということも考えていきたいというふうに思っておりますし、また集団登校を今長江小学校は実施しておりますけれども、そういったような在り方も考えられるんじゃないかというようなご意見もいただいておりますので、そういったことも踏まえながら、保護者の方々と一緒に検討していきたいというふうに思っております。</p>
住民1	夏休み前にこの長江通りで、長江小の子供が事故があったということはご存じですか。
三浦学校経営企画課長	はい。そういう接触といいますか、ちょっと引っかかったという、そういう事故があったことは承知しております。
住民1	<p>その接触というよりもですね、この擦りむいたぐらいで済んだんですけども、これは高齢女性の運転によって、ひき逃げのような状況があったということがあります。それを追いかけて行って、注意して、警察を呼んだというふうなことですけれども、こういうふうなことです、もう長江通りにおいては決して珍しいことではないんです。だから、教育委員会に言われるグリーンベルトを引いて、それでもうこれで安心安全だと、当初から言われておりますけれども、それはやっぱり見直してもらわなきゃいけない。この狭い長江通り、その部分的にも何か所かもうバスは離合できないところもあります。併せて電柱がこの道路は寄ってるんで、子供たちが、とりわけ低学年の子供たちは、下校時には遊びながら帰ると、私も道路側に住んでおりますけれども、よく見るんですけども、非常に危険な状況というのは、しょっちゅう耳にいたします。今の状況で、子供が無事に通学できると</p>

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>いうことは考えにくい。私たち長江地区社会協議会も、各町内会にお願いして、グリーンジャンパーを着て、見守りをしておりますけれども、それでもやはり起きると。特に雨が降った日などは、もう非常に危険です。傘を差して、車の離合の間を縫っていく。こういうことがですね、起きております。本当にいつ大きな事故に巻き込まれてもおかしくないと、しっかりした、当時から言っておりますような、安心安全な通学の確保、これをね、当初から言っておりますわけですから、どういうふうにしてやろうとするか。我々地元住民にとっても全く聞こえてこない。グリーンベルトだからOKだというような考えでいただけますけれども、その考えから一歩進むということは考えておられませんか。</p>
<p>住民 1</p>	<p>繰り返しの答えになるんですけども、グリーンベルトを引いたからこれで安心だということは、これまで一言も申し上げておりません。まずは、できるところから始めていこうということで、先程グリーンベルトのご紹介、それから道路標示ということをご紹介差し上げました。先程も申し上げましたけれども、路線バスの活用等も含めまして、保護者の方々のご意見をしっかりと聞いていきながら、具体的な検討をしていきたいと。</p> <p>また、地域の皆様を先程見守りをしていただいているということもありました。本当に心から感謝をしております。また下校時は遊びながら通っているという状況についても教えていただきました。通学対策と併せて、安全指導の面もですね、長江小学校の状況をお聞きしましたら、先生が安全について指導するだけではなくて、子供たちが注意喚起を自ら啓発をしていくというような活動もしているというふうに聞いております。そういったですね、ソフト面とハード面を併せてですね、どのようなことができるかということのをこれからも考えていきたいというふうに思っております。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>今グリーンベルト引いたら、これでもう安心ということは一言も言っていないというふうに言われましたけど、当初はそれを何回か言われたと記憶しております。それでですね、そういうもし事故が起きたら誰が責任とるのか。もう保護者が責任とるのか。あるいは、交通事故を起こした人間が責任とるのか、それで終わり。というふうな考えではないでしょうね。どういうふうなお考えをお持ちですか。</p>
<p>住民 1</p>	<p>事故が起きたときの責任ということで、本当に子供たちが事故に巻き込まれるという状況だけは、避けていきたいというふうに強く思っております。今そのような状況にならないように、起きないように、どのようなことができるかということを検討していく。今それに尽きるというふうに思っております。</p> <p>雨天の時ですね、とにかく、晴天の時にはそれなりに、傘がないから、子供たちが前に行ったり、後ろに行ったりしながら、遊びながら帰っていますけれども、雨が降った時はね、本当に危険です。雨が降った時の状況を何人の方が見られましたか。</p>

三浦学校経営企画課長	<p>我々も長江通りをですね。これは土堂小学校区、それから久保小学校区も関係してくることでありますから、土堂小学校区あるいは久保小学校区の端の方から長江通りを歩いて、新しい学校の予定地まで何とかこういうふうに歩いております。雨の日にその距離をちょっと実際に歩いたということはないんですけども、やはり我々としまして、そのような雨の日の危険性についてご指摘は受けていますので、様子はですね、車の中からとか、途上でというふうな形になりますけれども、しっかり様子は見させていただいてるというふうにやっております。</p>
住民 1	<p>その車から見られたということですけども、車から見て、どう思われましたか。これで安心安全だと思われますか。</p>
三浦学校経営企画課長	<p>繰り返しになりますが、これ決して安心安全な状況であるということには思っておりません。やはり傘を差して歩きますので、それだけ面積といいますか、幅を取りますから、先程もう言われたような接触のようなことが起こらないとは明言はできないという状況でございますので、繰り返しになりますけれども、どのようなやり方がいいかということ保護者の皆様と一緒に考えていきたいというふうに思っているところです。</p>
住民 1	<p>考えるというよりもですね、現実を見て、こういう状況だと。これだと事故を起こしても不思議じゃないと。もうそれは私たちが小学校の頃からここ歩いておりますが、昔は交通量がそれほど多くなかったけども、今非常に多いです、交通量が。多い中で、子供たちがこうやって通学する。非常にこれは危険なんですね。その危険さについて、どの程度に認識しておられるか。はっきりね、私は聞いてもちょっと曖昧で分かりにくいところがある。先程お伺いしました、もし事故が起きたらどういふような責任はどこにあるのかということについても、はっきり明確な答え出ておりませんが、いかがですか。</p>
小柳学校教育部長	<p>事故が起きたときの責任というのは、これは明確には、この場でなかなか申し上げることは難しい。それぞれのケースバイケースもあると思いますし、一番は加害の方になってくるのではないかとこのふうには思っております。私が、この通学路の安全対策ですね、当初から申しましておりましたけれども、やはり行政でできる整備というのは、限界があるというふうに思っております。今も継続して調査・研究、関係機関との連携も行っておりますけれども、行政での整備、それから当然車とか、自転車の通行があるわけですから、それらの方々への安全への配慮をしていただくような啓発もしていかなければいけないと思っておりますし、また、子供への直接的な安全指導、これも行っていかなければいけないと思っておりますし、また、地域の皆様から日頃から協力をしていただいておりますけれども、改めて地域の皆様へのご協力もお願いしなければいけないと思っております。ですから、この安全指導というのは、様々な角度から、様々な人がですね、結集してやはり見ていかなければ</p>

住民 1	<p>ればいけないというふうに思っておりますので、今後も教育委員会として、行政での整備や、学校や地域の方の協力もいただきながら、子供の安全安心な通学路を目指していきたいと考えております。</p> <p>今地域の方の協力を得てというふうな発言がありましたけども、土堂小学校で行われた時に、ついこないだですね。その時には、地域説明会においては、地域と学校とは完全に切り離すというふうな、はっきりした答えがありました。これとは地域とは切り離さないで、長江地区においては、地域を頼るということでしょうか。</p>
小柳学校教育部長	<p>私が土堂小学校の保護者説明会で申したのは、学校統合に対する考え方について、子供たちの教育環境を第一に考えていくということで、地域と地域の街づくり等とは一緒に考えていかないと、子供たちの教育環境を優先するという意味で発言をさせていただきました。この学校が成り立っているのは、当然地域の皆様のご協力があって、学校運営が成り立っているということはもう間違いないというふうに、それはこの間の説明会の中でも申し上げさせていただきました。ですから、これからもし新しい学校がっていくことになりますと、当然3つの小学校が1つになりますと、久保、長江、土堂の地域の皆様のご協力をいただきながら、学校は運営をしていくこととなりますので、私が申しました学校統合の考え方と学校の運営の在り方というのは、そこは違うというふうに理解していただければと思います。</p>
住民 1	<p>それは私らから見ると、地域から見ると、あくまで詭弁であって、こういうところだけは地域にお願いしたいと。ところが、地域も学校あつての地域という考えが強いのですから、我々としても、子供はかわいいですから、地域のためにやりたいという気は持っております。ただ、そうは言いながらも、当初からこの統合について、まず一番大きい問題だったのは、どこの学校も安心安全の通学路ということをやっと言い続けてきております。それに加えて、教育委員会の方、それについては、安心安全な通学路を確保するというようなこともですね、ずっと言ってきたと思います。やはり、それは非常に大事なことで、今言われた地域の方が出てきて、それで子供たちの見守っていくと。私は町内会長をやっていますから、地域でお願いするんですけども、地域の中でもですね、もういつまでこういうことをやるんかと。地域も高齢化しておりますので、人口も減っておりますので、今は地域としても、子供たちの見送りをやってくれということで、してやってくれと言っておりますけども、これがいつまでも続くとははっきり私も言えないし、どうやって説得していいかということもあります。それについて、甘えられても困るんじゃないかと思っております。私は、もちろん長江小学校だけじゃなくて、中学校あるいは北高の生徒さんでもありますね、自転車で北高へ生徒は行きますけども、そこらも含めて、長江で事故起こしてほしくないという思いで、ここもう20年ぐらい続けておりますけれども、それはそれでいくらかの効果、防犯というふうな観点からの効果も出ておりますから、それは皆さんがそういうこと言うんですけども、これいつ</p>

<p>小柳学校教育部長</p>	<p>まで続けられるかということもまだはつきり我々としても言うことはできない。だから、当初から言われているように、通学路の確保、安心安全な通学路の確保、それについて長江道路拡張という計画があるのご存知ですか。</p> <p>ちょっと私自身は、その辺は勉強不足で分かりませんが、例えばあったとしてですね、それは数年で多分できるものでもないと思います。長期に渡ってやっていくものだというふうに思いますので、それが今すぐ新しい学校ができた時からの安全対策に影響がすぐに及ぼすものというふうには、ちょっと思えないのではないかと、ちょっと感想ですけれども思います。</p>
<p>住民1</p>	<p>そこらもですね、しっかり勉強していただいて。この長江通りはですね、県道ですから。県の方が昭和8年に計画しております。それでこの道幅を6メートル拡張というふうな計画ができております。今中学校の上まで広げております。小学校下りて、長江口のところも広がっております。あの広さになっていくという計画があります。ただ、これは私も非常に県会議員とかでいろいろ情報ももらってますけども、まだそのやり方が上手くいってないと。どうやったらいいかという、やり方はあるということは聞いております。だからそれは何年かかるか。これはやり出したらそんなに時間かかるもんじゃないと。その長江中学校から上も、そんなに時間かかったわけじゃないです。だから、そういうこともですね、いつまでかかるか分からんから、これは当てにできんから、それに対しては動かないというんじゃないで、研究してみる。これは建設土木の方はこれを知っておりますので、そうこともですね、その方から知恵をいただいて、どうやったらできるかなあということ、私は私でいろいろ研究して、こうやったらできるということは、もうある程度ラインは聞いております。だから、そういうことができたなら、もう3メートルの歩道をつくるわけですから、もうそれは安心安全な、立派な通学路になること間違いありません。そういうこともですね。真剣に考えていくと、そういう情報も確保する、そういう情報も持つておくということはですね、非常に大事だと思います。今長江通りは、もう歯抜けのようになりかなり家が倒されております。だから、それはそれ、今でも建てようとする、もう4m6m下げろというふうなことで、縛りもかかっております。だから、それは地域としても、いつかできるんじゃないかというふうな思いを持っております。それできれば、今言う1つの懸念事項は解決するわけですから。そうこともですね、真剣に考えて、どうすればできるかと。そういうふうなことを県の方へ聞いてみると、あるいはぶつかっていかないと、なかなかいつまでたってもですね、この裏道を通そうとか、裏道も今崩れた所が2カ所もあります。1ヶ所はもう直すことが決まりましたけれども、1ヶ所は決まっております。これも本来、裏道が、なんで通学路がなくなってきたかというふうな事情知っておられますか。</p> <p>裏道が通学路として使われなくなった理由。これはちょっとごめん</p>
<p>三浦学校経営企</p>	<p>裏道が通学路として使われなくなった理由。これはちょっとごめん</p>

画課長	なさい。これは承知しておりません。
住民 1	<p>そこらがちょっと残念ですね。その何年か前は、そこが通学路で、みんな小学生、中学生、高校生は通ってたわけですけども、それをなぜ駄目になったか。それ地域に人が住まなくなつて変態者が出たと。それが捕まったということはもう、中学校小学校の校長先生あるいは教員だったら知っておられます。それが今どうなったかいうことはですね、確認しているかどうか知らないけども、そういう恐れがある。事件になったことがある。それが発端で、通学路が消えたわけですけども、だから、これを復活させようとする、またいろんなことを調査していかないとできないと思いますけども、今言った2案は、長江道路の拡張。あるいは裏道の通学路としての利用。これ裏道を使っていると、今まで暗いですからね、地域としても防犯灯をつけておりますけども、つけていない地域もありますし、これをまたいろいろ考えていかないけん問題もあります。まだ私は、地域に住んでるから、どうやったらいいかということも、いろいろ考えておりますけれども、そういうことをですね、やっぱり動きを見せていただけないと、やっぱりそれは、ただ口で安心安全な通学を確保と言われてもですね、なかなかそれは今の教育委員会ではできないなとしか言えない。だからそういうところを調べていって、もう尾道市全体の中を巻き込んで、どうやったらできるかということも考えていく。これはしていかなきゃいけない仕事の1つと思います。この統合を求めるんだつたらですね。そうしないと、いつまでたっても、この今のままで学校が統合されても、やっぱり懸念している交通事故というのはですね、減ることはないと思います。表に出ない事故というのは随分ありますからね。そういうことも全部警察沙汰になるわけではないので、タクシーなどは、特にもう事故が起きたら、事故係を呼びますから、大した怪我でなかったら、ここへ電話してくれということで、ぱつと帰って行くということも間々あります。だから、長江というのは、非常にそういう意味においては、尾道で一番怖いところかも分かりません。というのが、交通量の多さ、交通量もですね、もう金土日になると、もうそれは驚くほど渋滞いたします。そういうこともですね、現実あるわけですから。そういうことを踏まえて、もちろんこの今車社会ですから、車で通勤する方も多いですから、みんなもう狭い狭いということ言うとりますし、県外から来た人なんかは、やっぱりバスが来ると、もうずっと待っております。怖いから。こんな狭い街はない。だから、他県から来る観光業者も尾道は行きたくないというふうなことを言います。そういうことを聞いておりますけれども、それほど危険な狭い道路なんです。これを何とか知恵を出して、この考えてみるということはどうですか、していただきたい。そうしないとこの問題が学校ができて、いつまでも続くというふうになるんじゃないかと思っております。以上です。</p>
教育委員会事務局 (司会)	他に質問意見等がありましたら挙手をお願いします。

住民 2	<p>すいません。1点、今の交通量のことですが、お願いなんですけど、朝長江通りが7時半から8時半まで一方通行なんですけど、そこで、時々立って見ているんですけど、やはり上に上がる人がいらっしやるんで、すいませんが、その辺警察さんでも来ていただければ。もし切符を切るんだったら、北高の辺で待っといういただければ、確実に切れますので、その辺も工夫していただければ、警察さんも協力していただけるんじゃないかなと思いますので。また、小学生がまた久保小とか、そういうことでまた送り迎えもされるような人もいらっしやると思いますので、その辺また、保護者の方に徹底してというか、お伝えしていただければと思いますので、よろしくお願いたします。</p>
三浦学校経営企画課長	<p>ありがとうございます。一方通行のことにつきましてはすでに警察と連携を行っております。以前ちょっと何日か様子を見るということで切符を切っていただいたという話も聞いております。またこれはことあるごとに連携していきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>
住民 3	<p>〇〇と申します。長江にずっと住んでいるんですけど、私は長江小学校、長江中学校に通った経験があるんですけど、その当時は学校へ通学路でもそんなに車が頻繁でなかったんですけども、物理的に言うのですね、下校時なんですよ、問題が。下校時は右側通行で、北側から南側に降りていきます。電柱がですね。もう道路側に出てるのは、私ざっと数えて27本あるんですよ。全てが道路側にひどく出てるということじゃないんですけども、曲がり角なんかは特にですね、見えにくい。車側からですよ。車側からも、歩行者側からは見えてるけれども、車が止まろうとしてたら出ちゃう。そういうので、交通事故の危険性でいうと、下校時が非常に高いと思います。双方通行になってますんで。北行きと南行きが。その辺もですね、時間的なものもありましようから、ちょっとそこら辺も、できればですね、何か考えていただけたらありがたいなというふうに思っております。以上です。</p>
住民 4	<p>どうも。私は、今回で3回目。参加させていただいてます。そもそもですね、土堂から山波までの小学校、中学校を全部一緒にしないといけないことなのかどうか。特に小学生のことなんですけれども、令和10年からは、やはり1クラスしかできないんですよ。この統合しても。それと令和10年からは1クラスしか作れない状態になってくるのに、そこへ64億円をかける。小学校だけでしたら30数億円ですか、それだけのべらぼうな大きな建物を建てる必要があるのかどうか。その頃になると、尾道全体の少子化がかなり進んでますので、地域差がかなりありますので、そこでやはり再編ということが出てくる可能性は大いにあります。考えていけないといけない時期にもなってるんじゃないかと思うんですよ。そこへ無理やり今、この3校4校、一緒にする必要があるのかどうか。そして、30数億円を鉄筋コンクリートの5階建てを造って、じゃあ、あと1クラスになった場合に、その1クラスもどんどんクラスの人数は減ってきます。もう目に見えて10人を切る時</p>

	<p>期もすぐ来ると思います。そういうときに、その30数億円はどのようなふうな使い方になるのか、もう一度ちょっと教えていただきたいんですが。</p>
小柳学校教育部長	<p>まずは私の方からですね、今回の学校統合の枠組みということで、3つの小学校が統合します。ですが、山波小学校までは統合はしません。</p>
住民4	<p>ですけど、小中一貫の。</p>
小柳学校教育部長	<p>これは小中一貫教育校としての枠組みとしては、そういうふうにさせていただきます。</p>
住民4	<p>一貫教育なので、地域としては、何というんですか。4つの小学校が。</p>
小柳学校教育部長	<p>中学校区としてそうですね。</p>
住民4	<p>後々を考えると、4つの小学校も考えていると。</p>
小柳学校教育部長	<p>分かりました。学校再編については、今のこの少子化の状況ですから、今後市内全体で考えていく必要があるということは、私たちも十分認識をさせていただいております。その上で、まずは久保、長江、土堂小学校の児童さんについては、今仮校舎で学んでいただいておりますので、一刻も早く、新しい環境のもと勉強していただきたいということが思っております。ですから、この今の3小学校の統合、2中学校の統合にあたりまして、それぞれ久保中学校も長江中学校の校舎も築40年以上経ってるってということから、新しい校舎を建てさせていただくという選択をさせていただいて、今後、この地域には少なくとも40年以上学校が存続するということを前提として、今・・・。</p>
住民4	<p>いや、存続する可能性がないんじゃないですか。</p>
小柳学校教育部長	<p>これは、私たちとすれば、やっぱり今後、校舎整備をしていく学校というのは、全ての学校を新しくするという事は、非常に難しいと思っております。ですから、今後、やはり再編をどういうふうにしていくのか、皆さんとしっかり議論をさせていただいた上で、どこに校舎を建てていくのかっていうのを考えさせていただくんですけども、まずは、ここの久保、長江中学校区のこの学校再編ですね、1つの市内のモデルケースとして、新しい校舎を建てさせていただいて、今後40年は、学校を存続させていって、核となる学校っていうふうになんか考えてさせていただいて、こういうふうな計画を出させていただいてます。それと、ちょっと64億円等については、別のものが。</p>
川鯨教育総務部	<p>64億円の建設費です。そもそもの計算方法とすると、だいたい学校</p>

長	<p>は、今まで1校18億円とか、そういった前後です。結局、物価高というところでですね、1.78倍っていう数字が出てます。ですから、30数億になるという計算です。2校ありますので、64億円という試算をしています。そういう試算をしておるので、決してこの学校がですね、過度に高い学校だとか、特に施設が、これまでと違うとかいうようなことではございません。なおかつですね、先程学校教育部長が言ったように、学校施設というのは、これからかなり他の学校も老朽化が目立ってきています。だいたい学校施設80年を目標にということで長寿命化していこうじゃないかというのが国の計画です。しかしながら、尾道の学校にあっては、やはり40年、50年といった学校が今増えている。そういった中でですね、そうすると、これから40年の学校、50年の学校をですね、どうしていくのか。長寿命化していくのか。そうすると、子供たちの数が減っていますから、長寿命化を全ての学校でする、全ての学校をこういった大規模改修するということにはなりません。そうすると、やはり少子化と学校の施設の老朽化っていうのを合わせる中で、きちっと全市的にどの学校をどうしていくか、どの校区をどうしていくか、こういったことをしっかり考えていかなきゃいけない。そうするとですね、やはり、それを市内全域に考える中ではですね、スパンが20年から30年かかっていくだろうと思ってます。これはきちっと計画立ててみないと、どうなのかっていうのは分かりませんが、やはりこの久保中学校区、長江中学校区の、このいわゆる統合再編でも、かなりの時間を費やしております。そうすると、学校施設を新たに建築するだけでも、3年4年5年とかかかっていくわけですよ。併せて、再編統合だということになれば、もっとかかる可能性がある。いうことできちっと計画を持っていかないと、30年経った時にですね、先延ばししていくと、逆にその段階で、古い学校ばかりになって、どれもこれも危ないよと、もう待たないよっていうことをしては、我々はいけないと思ってますので、計画的に、やはり今後計画を立てていかなきゃいけないし、先程言ったようにモデルケースもある。そういう理解をしています。そういった中で、決して64億円という金額が高いというのは、確かにご意見としてあろうとは思いますが、今の金額としては妥当ではないかなというふうに判断をしているというところでございます。</p>
住民4	<p>あとですね、現在通学をしている小学生、中学生、特に小学生なんですけれども、この人たちは3年前に強制的に移動させられました。それから2年間、これからじゃあ工事に入りまして、その間仮校舎ですね。新しい校舎が造れる、できるのは4年後になります。今現在、その無理やりに引っ越しさせられた子供たちは、2年後に引っ越し、そしてまた2年後に引っ越しになります。それから何にもその教室を使わず、卒業という形になってしまいます、今の子供たちは。それだけやはりちょっと負担が大きいんじゃないかと。それと大きい小中一貫でなく、今ちょうど久保も小さい、長江もですけども、小さい地区での小中一貫ができるんじゃないかなと思うんですよね。何かもっとそこで今の小中一貫の教育の、ちょっと準備、何て言うんですかね。ちょっとうん。やって</p>

<p>川鱈教育総務部長</p>	<p>みて、それから大きい小中一貫を考えるとというのも手ではないかなと。やっと今2年3年経って、子供たちが安定し、仮校舎ではありますけれども、生活自体はだいぶ落ち着いてきているんじゃないかなと思ってらんです。これからまた2年後に引っ越し、そして校舎ができるのは4年後。またそれまでずっと工事中の中を通学していく。ちょっとそれは今現在在籍している小学生にとっては、ちょっと酷なことではないかなというの、すごく感じてらんですが。</p> <p>確かにですね。7年度に統合して、9年度に施設ができるということがですね、やはり負担になるのではないかとということで、我々教育委員会の中でも、何か同時にできる手法はないかということも考えました。ただですね、やはりそれをやろうとすると、また新たな仮設みたいなことが必要になってきます。どうしても我々としては、今同時にできないかっていうご意見あるんですけども、中学校と小学校が同居したまま新たな建物を建てると、例えば、今の長江で申しますと、長江のグラウンド側に新たな建物が建てられるんじゃないかのご意見もあるんですけども、そういったご意見も確かにいただきました。ただそうすると、今中学校と小学校は、グラウンドの基準面積は異なります。これは、中学校は部活があるとか言う理由でですね、広いグラウンドが、小学校に比べて必要になります。そうすると、今、中学校のグラウンドを見てもらえば分かりますように、小学校と中学校が、同居しながら上手に使い分けていただいていますし、テニスコートについては、グラウンドのところを利用しながらですね。不便をかけながらやっていただいているところではございます。これを、そこになおかつ新しい校舎を建てようとする、これは全くもう申し訳ないですけど、グラウンドの部活での利用は、かなり困難になるという状況になるので、やはり中学校、7年度に中学校が久保へ統合、小学校が長江側に統合すると、小学校の基準面積で、部活はないですから、グラウンドの基準面積を満たすんですよ。ですから、工事をしながらグラウンドも小学校のグラウンドとして利用できるということがあるんで、7年度に申し訳ないですけども、小学校と中学校はこういった形で移動していただくところが、今のこの現状の中では、それが最も最良の選択ではあろうということで、我々はこういうご提案を差し上げたということではございます。</p>
<p>住民4</p>	<p>えっとですね。さっきの話にちょっと戻りますけれども、尾道市全体での少子化が進んで、これから新しく編成を考えていけないといけないという時期に来ている時点で、もう5年後、6年後が迫ってきていると思います。</p> <p>あともう1つ。教師の何て言うんですかね。残業問題もありますので、それで部活の問題は必ず出てきます。そうしますと、別に小中一貫に久保と長江と土堂無理やりしなくても、中学校は、すぐ栗原の中学校など、すぐ近くですので、そういうところと協力して一緒に部活をするとか、何か他の学校でもそういうふうになっていくんじゃないかなと思うんですよね。しないといけない時期が、もうそれも来ているんじゃないかなと。</p>

	<p>ないかと思えます。今無理矢理反対の方が多いの3つを一緒にして、5年後6年後はもう少子化で見えてるのに、どうなのかなと。新しい建物を必ず何かを建てる条件になってるんですけども。なんかちょっとそこって、もうちょっと柔らかく頭を考え直して、長期でもうちょっと考えられないのかなと思えます。今ちょっと、今やはり一呼吸置いて、少し市の方も長期を考えていただいて、10年スパンぐらいで、いうのは駄目でしょうか。でないといけないんじゃないですか。今日先だけで、何十億使っても、それは良い結果にならないと思うんですけども。地域にとっても子供にとっても。</p>
<p>川鯨教育総務部長</p>	<p>はい。確かに大規模改修に留めてですね、新しい学校は待った方がいいんじゃないかっていうご意見もあります。ただ、大規模改修しても、結局またその20年持たせようと長寿命化して、20年持たせようとしてもですね、その後またその時点で、今度はやはり大規模改修ではなくて、新たな学校を建築するとかですね、そういった選択肢というのも出てきます。ですから、結局長いスパンで見ると、その分先送りして、いいのかどうか。先程言ったように、いろんな学校が出てくる中で、それが本当に妥当なのかどうか、さらにはやはりそういった学校が多く残ってますよ。その時にどういう形でまた統合していくかというのは、確かに長いスパンで考えなきゃいけないので、長江久保の中学校区を見た時にはですね、まさに今が再編統合のチャンスを活かして、建物を建てていく。建物側から見れば、まさにこれは良い機会ではないかというふうに捉えて、今新しい教育を目指す中で、それに見合った学校を建設するということを選択させていただいたというところでございます。なおかつですね、やはり子供たち今仮設にいるという現状がございませう。やはり我々教育委員会としてはですね、子供たちを長いスパンでっていうのは分かるんですけども、このまま仮設にずっと居させていいのかどうかっていうのは、やはり教育委員会としてですね、そういう選択は非常に我々としては、早く仮設から本設の学校へ、新しい学校へというのが我々の教育委員会の思いです。</p>
<p>住民1</p>	<p>えっとですね。先程の話で、40年先を見た学校運営やるんだということをおっしゃいましたが、40年先ですね、児童生徒数、当然把握はされているんでしょうね。そうでなかったら統合と言えないと思うんですけど、どういう数字を持っておられますか。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>我々もですね、将来児童の数がどのようになるかということは注視していつてるわけですけども、今出している見込み数は、現在生まれている子供たちの数に基づいて、何年には何年生がどのくらいだろうかということ出しておりますので、40年後人口が減っていくということは容易に想像できますが、どこの小学校が何になるとかっていうのはちょっと持っていない状況です。</p>
<p>住民1</p>	<p>それなんか、文科省に聞けば分かるんじゃないですか。文科省など40年先出してるんですよ。その40年先がどうなるかと。尾道の場</p>

	<p>合、5年先は言わないということで、何を聞いても5年間しか分からないということをね、いろんなどころで言うておられますけれども、それは、そこらを調べてなく、40年先までこういう学校を存続させるんだというのも、ちょっと暴論のように聞こえますけどね。</p> <p>それともう1つは、尾道の今の財政、借金は今いくらありますか。尾道のこの自治体の借金プラス合併特例債、これを含めて借金がどれだけあるか。ちょっとお答えください。</p>
<p>川鯨教育総務部長</p>	<p>すいません。今資料を持ち合わせておりませんので、お答えはできません。ただ、先程私の方が言わせてもらったのは、40年後学校残すっていうのは、今の現状のまま残すとは言うておりません。残すのは難しいといったつもりでございます。子供たちが減っていく。さらには、先程言ったように、もう40年迎えたような施設、40年50年迎えた施設が非常に増えてきている。こういった状況の中で、40年間このまま仮にあったとすれば、建物は80年です。いわゆる国の基準からすれば、もう寿命を迎えたような、危険な建物になっている可能性が高いという状況です。やはり子供たちの数は減ってきている。こういった中で、そこをこのまま何の施策もないままですね。それを待つのかということにはならないという状況の中で、やはり何らかの計画という計画になるか分かりません。だけれども、考え方というのは、きちっと持つ中で、取り組んでいかないといけないと、そういうことを申し上げたと思っております。</p>
<p>住民1</p>	<p>私は借金を聞いたんだ、今のはですね。今の尾道の借金状態で、ここで64億円という非常に大きい。これは尾道の年間予算の10.7%です。これ使う意味があるのかどうか、もう一遍考えてみるべきじゃないでしょうか。それはもう皆市民の税金ですから。私も財務課に聞きました。どのくらい補助金出るかという、答えられませんって言うから、私は知ってたから、知ってますよと、確認ですって言ったら、10億でしょう言ったら違いますという、いくらかって言ったら9億9500万円という言い方をしました。それだけが、この助成金が下りてくるということなんですけれども、それにしても、残りの54億これが、今の尾道にとってどれだけ大変な金額か。これも当然考えられておられるんでしょうかね。合併特例債はないんですよ。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>失礼いたします。財源の部分のご質問64億円について、財源の部分をどの程度見込んでいるかという部分のお話で、国の補助金については約10億円というふうなことでございますけれども、他にも起債がございますのでですね。その交付税措置分等想定すれば、一般財源負担というのは、概ね45億円までに、最大45億円ぐらいかなというふうな見通しを持っております。ただ、では他にどのような方法があるかということになりますと、他の手法としては大規模改修をして対応するというような手法がまず1つ考えられるわけなんですけれども、もし大規模改修をするということになりますと、先程申し上げたように、建物の寿命自体はそんなに長く延長できるわけではないという部分もござ</p>

<p>住民 1</p>	<p>います。そういったところを踏まえると、現在のところ、見込んでいるものとしてはですね、その後建て替えをしたという想定ではあるんですけども、先程45億円と申し上げましたけれども、それに対して50億円、55億円以上、建て替えをその後にするれば、同じようにかかってしまうというふうに、私どもは考えております。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>その50億円というのがですね。これから尾道で生きていく若者たちの借金になるんですよ。今、尾道の財政収支比率は御存じですか。</p> <p>申し訳ございません。ただいまその数字を持ち合わせておりませんが、まずですね、長江中学校区の小学校が、土堂、久保と2校ございますけれども、例えば、長江の土堂小学校で言えば、建築から80年が経過しております。それから、長江小学校につきましても、現在の校舎というのは、土砂災害のエリアにも含まれてますし、基本的には、現在地での建て替えということは行わないというような方針を以前からお示ししているというような状況でございます。そういった中でですね、選択肢としては、やはりそれぞれ建て替えをしておかしくない学校が2校ございますので、久保小学校につきましても、築80年を超えている。そういった中で、それぞれ建て替え対象の建物が3校ある中で、3校に対して、それを今後どうしていくのかというところで、私どもの方は、耐震性のない3つの小学校を統合して、統合しするに当たっては、新築が適切であるというふうに考えたものでございます。以上でございます。</p>
<p>住民 1</p>	<p>えっとですね。今言われたように、久保小学校は90年です。それで土堂小学校86年。それと、三井住友銀行の間直しましたね。あれは、購入費も含めて4億くらいですね。そういうふうで、耐震化も内装もできております。それが土堂小学校になってくると、22億円と、見てみると驚いたわけですけど、どういうふうにするればそんな22億円使えるかと。内装がと言われたけど、内装もそんなにかかるのかと、驚いている人も多いです。だから、そのそういう数字に対して信憑性がね、ないんですね。だから今、こういうふうな尾道の財政が厳しい中で、こういう大きい金額を使っていいのかどうか。市役所が建てまだ何年も経ってないです。市役所が建った時も、当初は市役所の備品を持って行きますと言って、全部持って行かないで廃棄してしまいましたけれども、そういうふうになっていく。やはりその備品が、今60億円には備品も入ってますね、備品が今となるとかなり豪華なものを入れていくんだなというふうに思われるけども、見本になるというか、目的にしている学校は、叡智学園ですかね。ああいう学校を目指して、備品もいいのを入れようという考えではないでしょうか。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>備品についての想定についてでございますけれども、備品の想定については、特に過大なというか、その高価なものを何か入れるってというような想定で積算は現在しておりません。通常一般的に、この程度は必要だろうという部分についてのみ、積算させていただいている状</p>

<p>住民 1</p>	<p>況でございます。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>それでこういう 6 4 億円という数字になるんですね。もう 1 つ言えば、三井住友銀行、あるいは尾道市重要文化財になっているのはご存知ですか。</p> <p>文化財指定を受けているというふうには認識しております。三井住友銀行の建物につきましてはですね、元々が銀行という特殊な建物であったということで非常に堅牢に作られております。このためにまたそれからメンテナンスも非常に行き届いていたというふうに伺っております。そういった部分で、もしも実際に状況が悪ければなかなかそういったお話も進めなかったんだと思うんですけども、施設の状況がよかったので経費もかなり安く済んだというふうにお伺いしています。</p>
<p>住民 1</p>	<p>私が聞いているのはですね。当初三井住友銀行を購入した時、目的がなかったんです。目的なしで買ったと。さあどうするかということで、令和 2 年に尾道市重要文化財という指定をして、それからああいう耐震化を行ったというふうに聞いております。それで、それに 1 年古い土堂小学校。これなども、もう私から見れば、土堂小学校は尾道市重要文化財であって当然だと。久保小学校も 9 0 年ですから、ああいうアールデコを使った建物。これも重要文化財であって当然だと思っております。</p> <p>先日私たちは、東京へああいうふうな、戦前の校舎があると。1 つは東浅草小学校、もう 1 つは、黒門小学校。黒門小学校なんかは、やっぱり 1 0 0 年以上経ってますけども、耐震化しておりません。というのが、その当時のコンクリートが強いんで、耐震化しなくて済んだと。東京大空襲を受けても残ってたのは、黒門小学校と大丸百貨店。それらのもので、もう当然今、重要文化財というふうに持っていつております。教育委員会とも話をしましたが、教育委員会の方の言い方。いろんな話の中で、私たちは、その学校に卒業した人は何万人もいると。その人たちの歴史を奪うことできない。これからもその人たちの力を借りながらこの学校を残していきたいと。だから教育委員会からそれをも壊すということは、一切言いませんということで、今東京都では、9 校か 1 0 校か、それ残っております。こういうふうにしてもう古いから壊してしまえというのはですね、いかがなものかと思えますけども。これは文科省などには相談されていますか。</p>
<p>末國庶務課長</p>	<p>文科省等にご相談ということは、特にさせていただいておりません。</p>
<p>住民 1</p>	<p>それならばですね。今日は言うまいと思っていたんですけども。教育基本法というのがあります。ご存じですね、当然。教育基本法。これによるとですね、特に 1 3 条。読まれたことありますか。教育基本法。これ文科省がやっていますからね。抜粋して読んでいくと、「我々日本国民はたゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家をさらに発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉を福祉の向上に貢献する</p>

	<p>ことを願うものである」と、「我々はこの理想を実現するために、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性、備えた人間の育成を期するとともに、」ここの後が大事なんですけど、「伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」と。そういうことも書いています。これも大事なことですけども、これは法律ですからね。こういう法律があるということ。これを見ていくと、2条の5項も大切なんですけども、「伝統と文化を尊重しそれらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際的な社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」とかですね。これは私も随分、何度も読んで解釈しようと思ってやりましたが、特に13条、「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力に努めるものとする。」ここでも、この地域とかですね、大事にせよと書いております。これは法律なんです。調べてみると、法律でそうに決まってるんですよということですね、この教育基本法に書いてあります。これをもう一度読まれて、今皆さんがやってることは、果たしてこの教育基本法に則ってやっているかどうか。</p> <p>もう1つですね、16条、「教育は不当な支配に服することなく、この法律及び他の法律の定めるところにより行われるべきものであり、教育行政は、国と地方公共団体との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に運営するもの」と書いておられます。これは、教育基本法という法律です。これに今特に13条などは反していると私たちは思ってますけども。皆さん方は、そうは思われませんか。</p> <p>今教育基本法についてご紹介がありました。教育基本法は、かなりの上位法ですから、そのもとに学校教育法があり、学校教育法施行規則等がありますね、それらの下に学習指導要領というのがございます。ですから私たちは、子供の教育内容については、学校教育法以下、学校教育法施行規則等に基づいてさせていただいておりますし、教育行政の執行については、その下位の法律でありまして、略すと地教行法ですけども、それらに基づいて、適切に事務の執行をさせていただいております。ですから、私たちが教育基本法違反をしているのかどうかといういう多分ご指摘だったと思いますけれども、私たちは法律に基づいて事務を適切に遂行しているというふうに捉えております。</p> <p>ということは問題ないというふうなお考えですね。教育委員会としては。そういうふうな解釈でよろしいですか。</p> <p>問題ないというのが、どこの部分なのかというのはちょっと分かりませんが、少なくともこの学校再編、今ご説明させていただいている提案内容については、問題ないということで提案し、説明もさせて、これまでこさせていただいているという認識でございます。</p> <p>ということは、伝統文化を守りということについても、教育委員会</p>
小柳学校教育部長	
住民1	
小柳学校教育部長	
住民1	

小柳学校教育部長	<p>としては、伝統文化はちゃんと守ってるよというふうな、それに基づいて、土堂小学校、久保小学校、もう放っておくと。今後どうするか全く出てないですから。それに対しても、全く考えていないということですね。</p> <p>これまで説明させていただいているのは、それぞれの学校の特色、これを継承していく。また、地域の学習ですね、それもいい面は継承していきますし、地域の方のご協力も仰いでいく。しかしながら、3校統合ということですから、それらの全てを、これまでですね培ってきたことをやるっていうのは、やはり学年の数とか、授業時数のところで難しいと思いますから、それらは新たな学校文化を創造していく。再構成しながら、3つの地域をバランスよく取り入れながら、新しい教育を創造していくということを考えておりますので、伝統文化を大切にしていけないということをは言えないのではないかと思います。私たちは伝統文化を大切にした教育をこれまでも行ってきましてし、これからも行っていきたいというふうに思っております。</p>
住民1	<p>私は当初聞いた文科省にこの何か尋ねられましたかということはどういうところで、土堂の学校、久保の学校。これらをですね。重要文化財あるいは文化財として使っていこうというふうな気は、毛頭ないということですね。</p>
川鯨教育総務部長	<p>ご存知だと思いますけれども、当初はやはり文化的価値、こういったものをですね、維持しながら耐震化できないかということからスタートをしてるということは、ご説明をこれまで何度もしてまいりました。そういった中で、いい手法がない、また新たな手法が見つかった。だけれども、居ながら施工ができない。こういった中で、結局、現地の3校の現地耐震補強というのは、やはり断念をしたということで、今こういう再編統合案を出してきたと。出させていただいたということでございます。決してそれぞれの学校の伝統や、やはり歴史こういったものをですね、ないがしろにしてということは、決して思ってませんし、また今の校舎にしてもですね、どのように今後利用していくかというのは先程申し上げたとおり全く白紙でございます。今、耐震性がないということで、決まっていることは耐震性がございませんので、使用禁止ということだけで、今後どのように利用していくかとかですね、いうことについては、今後、地域の皆様はじめですね、我々教育委員会だけではなくて、市全体で考えていく方がというふうに思っております。</p>
住民1	<p>今土堂小学校について言えば、居ながら工法をできないと。だからやらないというふうに言われましたが、今千光寺に上がって何年になりますかね。3年4年ですかね。この間にですね、やろうと思えばできた。しかもですね、耐震化、この度提出された22億というふうなこともですね、当初はなかったと思います。私も、その当時議員やってたから、教育委員会に聞いたこともあります。こういうふうな方法でやろうと思いますということで、その時の予算は、10分の1近い金額だった</p>

と思います。それがなんで22億円だったかと。だから土堂学区の人たちも懸念に思っているのは、居ながら工法はできないと言いながら、子供がいないんだから今のうちにやってくれというふうなことも思っているわけです。教育長も、それに近いことを言われたと思いますけれども、やっぱり子供たちがいつになったら下に帰れるかというようなことを言うと。もちろん保護者も地域も。当初は市役所を建てる前は、もう設計図ができて、さあこれから耐震化がありますよという時に、降って湧いたんですよ。市役所新築というのがですね。それで、私が喋ったことは見当たらなかったと言われましたけれども、私の記憶では、市役所先建てさせてくれと、その後すぐ耐震化やりますからというふうな答弁があったと思いますけども。そういうふうな段取りが、いつの間にか統合に変わっていったと。流れがですね。教育委員会の皆さんが、本当にそうに考えられたんかと。ちょっと思いたくない。皆さん教育者ですから。もう子供たちのことをしっかり考えて、こうやって子供たちを育てていこうというふうなことも思っておられると思うんですけども。そういった中で、降って湧いた統合問題、これも、当初の統合するというふうな案件。理由ですね。急傾斜地があって危ない。それももう論破されて今出ておりません。今はもう急傾斜地のことを言わなくなったですね。それと、児童数が、令和10年には複式学級になる。これを見ると、それには学校選択制は入れていない。何とかそうやってできない理由ばかりを言ってきている。それで納得せいでいうのは難しいと思います。そこでですね。土堂小学校が、あれほどこういうふうにもう残してくれと言ってるんだったら、向島中央小学校の例にならって、三幸小学校ができた後、我々は嫌だと言って、それを認めたと。そこはどういう力が働いたんですか。市長の生まれ故郷が岩子島だからということですか。皆さんそういうふうにいぶかっておられます。それについてどう思われますか。

川鰭教育総務部長

向島の三幸小学校ですね、三幸小学校を統合ということではなくて、向島中央小学校がコンクリート劣化等、老朽化が非常に激しい。こういった中でですね、その中で子供たちの教育をすることは非常にやはり差し迫った危険があるよということの中で、向島中央小学校を早く建て替えなければならない。そういう状況の中で、そのいわゆる統合論というのが起きたというふうに我々は認識をしておりますので、今回のケースではですね、全くそれと、いわゆる久保、長江、土堂のケースとは全く違うというふうに考えております。今まで我々は、耐震化ということを考えてきたんですけども、それを断念した上で、とりあえず仮設へ、まずは安全な環境、安全な教育環境を確保するという一方で、仮設校舎を建設し、それぞれ移動移転をしていただいたという中で、そういった中で子供たちの数がこれだけ減っていく、減少していく中で、学校の在り方としてどうなのかということを引きつと検証をさせていただいた上で、こういう提案をさせていただいたという経緯は、これまでもう何度も説明してきたというふうに思いますし、その経緯は理解をされているというふうに考えております。

住民 1	<p>そういう提案も最初から聞いておりますけれども、それに対して土堂学区の皆さんは、反対だと言っているんですけども、これ三幸と同じじゃないですか。三幸とケースが違うと言われても、三幸は今 88 人です。複式学級になりません。これいつまでならないんですか。もう永久にならないんですか。それを常に言われますけれども、それに加えて今土堂小学校は 170 名おられます。これが、令和 5 年には複式学級になると。学校選択制を消していったら、そうなるのは当たり前ですけども、そういうふうに作っておいて、やっていてない。これはもう何か恣意的に見えてしまうんですね。だからなかなか理解してくれと言っても理解できない。この際、土堂外して久保、長江で統合して学校を建てる。それで、土堂が来ると言えば、来ればいいじゃないかというぐらいの幅を持った選択肢というのはないんですか。</p>
川 鱈 学 校 教 育 部 長	<p>今の三幸小学校については、耐震性がある建物でございます。安全性が確保されている建物でございます。今の久保、長江、土堂小学校の児童の皆さんは、仮設校舎で生活をされているという状況の中で、やはり状況は大きく違う。我々として、仮設の状況にある子供たちを、やはりきちっと仮設校舎ではなくて、本設の校舎で学ばせたいという思いから、こういった提案をさせていただいているというご理解を賜りたいと思います。</p>
住民 1	<p>それはまあ、土堂、長江、久保、これは耐震化をする予定だったのにしなかった。できなかつたんじゃないかと、しなかつたんでしょう。しなかつたから、こういうふうな統合が出てきたわけです。その市役所建てる前には、もうする予定があったというのも間違いはないですね。なかつたですか。</p>
川 鱈 教 育 総 務 部 長	<p>その市役所のというのは、建てる順番とか、そういったことについて我々はそのような認識は持っておりません。</p>
住民 1	<p>認識なくても世間はそうに思ってます。だから、なぜ土堂、長江、久保、3校だけ耐震化ができなかつたのか。これ意図的に、そういうふうにはやられたとしか見えないですね。となると、地域の保護者、保護者はあんまり深く考えないけども、地域の方々は、やっぱりそれは降って湧いたようなことだから、何とかそれをね、この元に戻してくれというふうな願いを常にぶつけているわけです。それに対して、明確な答えはほとんど出てこない。当初言われてた急傾斜地の問題も消えてしまった。併せて、令和 10 年に土堂小学校が複式学級になるというふうな、読みも外れていってる。耐震化はこの間出ていた 22 億もかかると。全部で 86 億かかるといふような大きい数字を出して、だからできないんだというふうに言い切ってくる。そんな内装、それ聞くと内装に金がかかります。誰も内装に金かけてくれと言うてないんですよ、それは。それをお金をかければきりが無い。だけど、そのとりあえず土堂地区においては、あるいは久保地区においても、古い歴史ある学校。卒業生が 2 万人近くいる学校。これをですね、何とか残して欲しいという地域の切な</p>

る思い。これに対して、やっぱり教育委員会としても、何らかの形を見せなきゃいけないと思いますが、それを強引にやろうとするから、何か強い力がかかるとるんかというふうにも思われるというふうにもみんな感じているわけです。だから、今までその説明会、何度もありましたけれども、明確な答えが出ないところが随分あります。答えられないということがあるわけですが、だけど皆さんやっぱり教育者ですから、教育者として、子供、地域、地域がなかったら子供も育ちませんから。そういうこともしっかり考えて、果たして今やろうとすることが正しいのかどうか。もう一遍考えていただきたいと。どうしても建てるんだということを言われてるんじゃないですか。だから絶対その線を崩すなというふうには私たちには見えてしまいます。

もう一遍その教育者として真摯に、地域、今まで地域が育ててきた学校、子供たち。もう土堂も山手の方はだいぶ若い人が住んできて、土堂小学校に通っているというふうな例もありますし、人口が減っている中で、地域としては、増えていくということで喜んでおります。だからその増やそうと思えば、学区編成などでもですね、いとも簡単にできるわけですから。教育委員会が思いついたら、パッパッパッとやったら、学区編成でもですね、やりましょうと、できますし。もうはなから残そうと気はない。それならそれで、我々はこういうふうな説明会に来て、いろんなこと喋っていくのも勉強になりましたけれども、空鉄砲という感じになります。どう思われますか。

小柳学校教育部長

いろんな角度から様々なご意見をいただいたというふうに思っております。私たちは、やはり子供たちのより良い教育環境の充実、これを図っていくために、安全性の確保と学校規模の適正化、これを目指して、これまでも市内全体の学校再編を進めてまいりましたし、今回のこの学校再編についても、同じスタンスで臨ませていただいております、説明を繰り返しているところでございます。

また、教育委員会というのはですね、やっぱり独立した組織ですから、教育委員会として様々なことを判断して、これまで実行を移して移させていただいております。ですから、今回も教育委員会として、様々な議論をし、子供たちのより良い教育環境を目指して、提案をさせていただいているものでございます。ですから、いろんな今も意見をいただきましたけれども、私たちは、この土堂、久保、長江、それから山波小学校も含めて、また久保中、長江中も含めて6つの小中学校を一体的に捉えて、やはり統合を考えていくという考え方に変わりはございません。

住民1

もう1つ言えばですね、これも言いたくなかったんですけども。今、教育委員会の幹部の方が、議会室を回って、いろんな人と接触してると。私も見ました。これ何のためにやってるんですか。今度9月に上程する。設計費のこれを賛成してくれということ言って歩いてるんですか。大きな問題ですよ、これは。議会の中へ入ってくる議会人は、選挙人から選ばれた人間ですから。その人たちをですね。そういうふうに1部長が来て、この問題については賛成してくれ、というようなことがあ

	<p>ったら、大ごとになりますよ。我々もそれに対して、対抗していこうというふうなことを今考えております。議会をなめてもらっちゃあ困りますよ。我々議員ですから。あなた方ずっと職員でおれるけど、我々4年間は市民のために一生懸命やるというのが議員です。その議員をです。一本釣りしていこうとか、そういうふうなね。浅はかな考えは捨ててください。どう思われますか。</p>
川鯨教育総務部長	<p>今言われたような一本釣りするとかですね、そういった考え方は全く持っておりません。</p>
住民1	<p>それならば、何のために議会に来て、各部屋へ入って、いろんな話をしなきゃならないんですか。教育問題について話してるんですか。何を話しされてるんですか。言えないことですか。</p>
川鯨教育総務部長	<p>この再編統合問題を含めですね、様々なご意見をいただいております。それについて説明することもあります。また、議員の皆様からいろんな呼ばれて聞かれるということもございます。そういった対応をしているということで、決して先程言われた通りのことはございません。</p>
住民1	<p>私は議員説明会について十分喋らせてもらいましたけれども、私のところには、どなたも来られません。それまたなんですか。</p>
川鯨教育総務部長	<p>会派としての勉強会ということで、現地の視察等に対応させていただきました。</p>
住民1	<p>まあ、だいたい分かりました。これについてはかなり大きい問題が出てくる可能性があるんで、これ以上は言いませんが、議会というのは、議員というのはあくまで市民に選ばれた人間ですから。しかも4年しか議員の資格はありません。皆さんはずっと定年までおれるんですけども、そこらをしっかり考えていただいて、あんまり軽々な動きをしない方がいいということだけ言っておきます。</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>まだ発言されてない方で、質問意見等ございましたら挙手をお願いいたします。</p>
住民5	<p>連日、どうもお疲れ様です。毎日毎日ずっとあの暑い中、皆様お集まりになって、とても大変だなと思って、今日見てまいりました。これまでですね、ハードの話が多いと思うんですね。お金の話であったりとか、建物の話、あるいは地域の話が多いと思うんですが、ソフトの話、教育本来の話ですね。子供たちにとって、どういう教育をしていくのか。この資料の方に記載されてる先程10分のところでは、お話がなかったので。この教育の話っていうのは、子供たちが良い環境で教育を学ぶ教育を受ける。それと、保護者の皆さんも喜ぶ。これは、長い目で見ると、少子化対策になったり、あるいは人口減少、まあ人口減少仕方が</p>

	<p>ないというふうな側面ですが、増えている街もあるわけで、逆に今持ってらっしゃるビジョンで、少子化に抗う。この旧市街と言われる、まさに尾道のちょうど真ん中のこの街で、人を増やしていく。そういった先程の学校統合と地域の街づくりっていうのは別だっていうふうなご意見もあるんですが、決してそうではなくて、やはり教育で地域を盛り上げていく。あるいは人を増やしていく。あるいは憧れの街にしていく。そういったところっていうのは、どういうふうにお考えになっていらっしゃるのかなというふうに思いまして、質問させていただきたいと思えます。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>もちろん、やはり保護者の方が一番関心があるのは、教育内容のことではないかなというふうに思っています。ですから、保護者説明会を回らせていただきますと、早く開校の準備をして欲しいとか、教育内容を決めて欲しいというご意見もいただいております。街づくりの観点からという多分ご質問だというふうに思いますけれども、やはり教育を充実させることと、街づくりっていうのは、どう言ったらいいんでしょう。関係がないとは言えない。というふうに当然思っております。地域の支えがないと学校っていうのは今現在成り立っていません。話題になってる通学路の安全対策についても、市内のたくさんの方に、やはりご協力をいただいて、子供の見守り活動をしていただいております。</p> <p>また、ゲストティーチャーでたくさんの方が学校に入っていて、子供の教育活動に多大なる支援もしていただいているのですが、この学校の再編に関わっては、子供たちの学習環境、教育環境をより良く充実していく観点から、街づくりとのかをやっぱり地域の方は議論されるのですが、私たちは、子供たちの教育環境を優先的に考えて、この学校統合のことについてはさせていただいているということでございます。</p>
<p>住民5</p>	<p>今回結果どうなるかっていうことがあるんですが、統合するあるいはそのまま行く、そうなった時に、よその街から憧れられるような教育っていうのはどういうふうなものか、あるいは将来的に今いろんなところで特色のある学校が、どんどんできていっている中で、今回もこれはモデル校にして、特色ある学校をしようというふうにされてると思うんですが、そのビジョンというか、具体的なものとか、あるいはみんなが、おおすげえなあというみたいな、思うようなものっていう、何か私が知らないだけなのかもしれません。何かお持ちなんではいしょうか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>小中一貫教育校ということを示唆させていただいて、これは市内では初めての試みということで、9年間で子供を育てるっていうことをやっていきたいというふうに思っております。この新しい学校を創るときに、2つの見方があると思ひまして、1つはやはりリーダー校として創っていく。もう1つは、やはり義務教育均等の観点から、モデルケースとはなりませんけれども、市内全体に波及するような学校を創っていくということで、私たちとすれば、市内のリーダーになる、ここだけ突出した学校を創るというよりも、モデル校として創らせていただ</p>

住民5	<p>て、他の学校もこの同じ教育水準を守っていきたいということが、まず前提のコンセプトでございます。これからの子供たちに、やっぱり必要なのは、プレゼンの中でちょっと学校の中にありますけども、やはり英語教育とキャリア教育、この2つの充実度、あとはローカルということで、地域の学習素材を取り入れた教育が、これらを今多くの素材がありますし、英語教育やキャリア教育も市内にたくさんの素材がありますので、そういった人材等も有効に活用させていただきながら、まずはその部分を最大限に活用させていただいて充実していく、そういった教育をベースにしたいというふうに考えています。</p> <p>今いろいろ考えていらっしゃると思うんですが、ぜひ他の市町でやってらっしゃる成功例とか、事例とかですね、これから時代がどんどん変わっていきますので、行くと思われまますので、取り入れられるものをどんどん取り入れていただきたいなというふうに思うのと、外から見た時にやっぱり教育でいい学校があったら、まさにかつての土堂小学校がそうだったように、いい学校があったら人が増えてますし、移住者も増えますし、どんどん人が来ますので、そこは積極的に10年20年間、見据えていただいて、なんか市内であるものだけじゃなくてですね、他のところもぜひ参考にさせていただく広い目を持ってるか、あるいは長い目で見ていただくっていうふうな必要があるかなと思います。それがまさに少子化だったり、人口減少に歯止めをかける一助になるんじゃないかなというふうに思いました。はい。以上です。</p>
教育委員会事務局（司会）	他に意見質問ございましたら挙手をお願いします。
住民2	<p>すいません。意見ではないんですが、お願いなんです、今この教育内容とか見させていただいて、私も早く大きくなってよかったなど。これからも小学校の生徒も大変だなと思うんですが、その辺の心のケアというものと、やはりその全部が全部そのレベルにずっと達することは無理だと思いますので、その辺の学力に対するフォローというか、見たらもう英語も小1から英語なんで、私は高校になっても英語が分からなかったぶんなんで、その辺は、その辺の新しい教材というか、その辺の分からない子と言ったらおかしいですけども、言葉は悪いけど、レベルを、同じようなレベルにされるなら、その辺の学力のケアと心のケアをしていただきたいなと思っております。</p> <p>それとあともう1点、それに携わる先生の心のケアとか、体のケアとか、遠くから来てる先生もいらっしゃいますし、それもやっぱり車でしょうから、その事故とか、そのような形の心のケアと体のケアをすいませんが、これからも、統合されてんでしょうから、その辺をちょっと、本当にモデル校になるような形でしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。</p>
小柳学校教育部長	今言われました児童生徒への心のケア、教職員のケア、それから学力へのフォローですね。本当に大事な部分だと認識しております。ですか

<p>住民 4</p>	<p>ら、まずは統合前の開校準備、閉校準備等ですね、この辺にも過度の負担がならないようにでありますとか、子供たちの前年度の交流活動をしっかりした上で統合を迎えるでありますとか、統合後のやはり心のケア、そういったものは非常に大切だと思っておりますので、皆、地域の皆様や保護者の皆様から少しでも不安が払拭できるような、やはり準備をして臨んでまいりたいと思っております。</p> <p>以前も言ったと思うんですが、土堂小学校はモデル校でやってきたんですが、それを3年前に壊されたという土堂の方がそういう認識があるんですね。それでまた新しいビジョンを打ち上げて、何か特色あるモデル校にいうふうに言われても、ちょっと土堂の方は、かなりそこで、何か口だけじゃないかとかいうふうな認識はあると思います。相当市へ対する批判的なタイプ、意見というのは、やはりそこら辺の信頼度がないというはしごを外され、一度はしごを外れているという認識があるかと思えます。</p> <p>あと4年後に建物を建てないと、そのさっきのビジョンの教育方針は始められないということで、前回の説明会でありました。別に教室が広くなくてもできる。ビジョンでないと教室が広がった学校しかできないビジョンというのは、おかしいんじゃないかなと思ってるんですね。全尾道市内の人たちが、学校が後々いいビジョンなら真似をしていきたい。そういうふうに思われる学校モデルにしたいという気持ちでいらっしゃると思うんです。そうすると、別に1.5倍の教室にして、ロッカールームがあって、ワーキングルームがあるような学校が出来上がらないと、その教育方針が始まらないっていうのは少しちょっと違うんじゃないのかなという。建物ありきじゃないのかなという、それも土堂小、土堂地区の方にとっては相当抵抗がある部分だと思います。それと今2年もう2年間はかかりますので統合が、結局その間、まだプレハブの方に子供がいます。その間に、土堂小学校は、やはりあれだけ市、街あげて統合について反対されてますし、土堂へぜひ帰りたいという気持ちは、長江や久保の地区よりも相当強いものがございます。やっぱりそこは耐震が22億と言っとられましたが、前回学校での説明会でしたら、相当何分の一かに下がって、何か試算をし直されたら、三分の一以下になってるような数字を言われたように聞いております。ですから、やっぱり土堂小学校の方、土堂地区の方は、やっぱり学校に対する思いというのは相当ありますので、やはりそれは考えていってあげないと。やはり、これから市と町との分断というのが相当あると思います。あと、長江と久保の方はどうしても校舎が駄目なら駄目であれですけども、別に大きな建物を建てなくても、5階建てを建てなくても、それはそれでもうちちょっと経費のかからないこじんまりしたものでもいいんじゃないかなと思うんですが。どうでしょうか。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>まず土堂小学校のことをございますけれども、これは学校選択制度を縮小したことが、多分そういうふうに使われてるんだと思いますけれども、私たち教育委員会としましては、学校選択制度を土堂小学校40人枠に確保してきた経緯がございます。しかし、これは学校選択制度</p>

	<p>の趣旨は、モデル校にするのではなくて、特色ある学校を創っていくということですから、各学校が特色ある学校づくりを目指した中で、学校選択制度の枠を学校と相談して決めてきた経緯がございます。ですから、土堂小学校というのは、かなり学校選択制でやっていた時に人気のあった学校ですけれども、その学校の特色を保護者の方や子供たちが理解をして入学したものと捉えております。決して市内をリードするというか、モデルというか特別な学校を創ってきたという認識は教育委員会としてはありません。</p> <p>4年後に教育ビジョンを実現するということですが、そういう説明をしたことは、これまで1回もないんですけども。</p>
<p>住民4</p> <p>小柳学校教育部長</p>	<p>言いました。建物ができてから。</p> <p>これはですね、そういつて捉えられたのであれば、大変申し訳ありませんでした。これは当然令和7年4月の統合した時から新しい教育内容、今日させていただいたものを、全部はすぐにはできませんけれども、少しずつ取り入れながらさせていただければと思います。ですから、より良い教育を行うために、施設と一体化して充実させていきますから。例えば、この1.5倍の教室がなくても、やろうと思えば今やっていますから、当然できるわけですが、より子供たちが伸び伸びと充実した教育をできる環境ということで、1つの例として提案させていただいております。ですから、令和7年4月から段階的にやっていきますけれども、やはり教職員の皆さんとしっかりと相談をさせていただきながら進めていきたいと思っております。</p> <p>あと現在の土堂小学校の地域や保護者の方のご心配していただいております。私たちとすればですね、当然地域と行政が分断されないよう、ここは注視していきたいと思っておりますし、そういったことも思いまして、説明会も繰り返しさせていただいております。今後この私たちの案がどのようになるのかというのはありますけれども、もし仮に通ったとしまして考えてみますと、やはりどの地域の方からも応援していただける学校を創らないと意味がないと思っておりますので、そういった面については、土堂の地域の皆様と今後も話をする中で、新しい学校づくりについて参画をしていただき、より充実した。教育が行われるように、それはお願いをしていかなければいけないと思っております。</p>
<p>住民4</p>	<p>現在ですね、小学校の通学の距離なんですけれども、約40%近く37%以上だったと、37%程度だと思っております。遠い、または遠すぎるというアンケートがあったかと思っております。やはり小学生にしても中学生にしても、さっき最初に話が出ましたが、通学途中の危険度、また不審者との、今、こともありますし、やはり相当今、現在通学なさっている生徒さんも危険を相当感じて通学、徒歩通学をしている方が多いということなんです。やはりちょっと40%近くが、危険を感じながら、その通学してるっていうのは、やっぱりこれは尾道市内全体ですから、やはりそこは教育委員会としても、もう少し考えるべきことがあるん</p>

	<p>じゃないかなと思います。それと、やはり小学校1年生で、3キロ以上のランドセルを下げて歩かしていくっていうのが、本当に良いのかどうか。他の地区は歩いてるよって言われれば、それはそれだけなんですけれども。いやそれが本当にいいことなのかどうかというのが、その危険ですね、ちょっと奥の方でしたら、やはり今、イノシシであるとか、そういう動物の災害というのも相当ありますし、そういうものに出くわす危険度というのも子供たちも増えてきてます。やはりそれはちょっと市全体の問題ではないかと考えているんですが、またこの尾道の地区は、さっき言われましたように、自動車道路が狭いということ。それと、不審者が長江は2、3回ありましたよね。2、3件事件あつてますので、この長江の通りですね。危険というのは、もう少しちょっと認識をしていただきたいと思います。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>本当に、通学路の安全確保というのは、本当に大事なことだと思っております。ですから、詳しく述べればきりがありませんけれども、まずは、やはり遠方の方3キロには行ってないんですけれども、やはり通学支援ということで、路線バスを活用した通学支援、これらも今検討を行っておりますし、この長江通りの安全対策のみならず、他の地域にも様々な危険な場所がありますので、合同点検もさせていただきながら、全体的にこの校区の安全確保について今後もしっかりと見ていながらさせていただきたいと思っております。</p>
<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>終了予定時刻となりましたので、質疑応答について終了させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>住民5</p>	<p>すいません。時間が押してて申し訳ないです。さっきちょっとハードとソフトという話をさせていただいたんですが、ハードというか、気になるところ、先程もね、地域とよりしっかり話をして、みんなが納得、全員が難しいかもしれませんが、より納得する形で落ち着かせなきゃいけないと思うんですが、やはり懸念としてはですね、この旧市街で一番尾道の中でも人口が減ってるエリア、皆さんもご承知だと思うんですけども、小学校に関して言うと、いわゆる栗原に近い長江小学校に行くっていうことになるとですね、よりこちらの、いわゆる元々尾道と言われた、一番最初から尾道と言われた町が、もっと閑散とするんじゃないかなっていう懸念があります。今ですらもう本当に子供いなくてですね、商店街あたりもそうですけど、もっとこれが進むんじゃないかっていう地政学的なリスクっていうのも生じるなっていうふうに思っています。</p> <p>あと〇〇議員もずっとおっしゃってますけど、やっぱりお金って大事だから。これは、お金、先程ありました54億っていうお金に関しても、本当にそれが妥当なのか、本当にそれだけのものが必要なのか。当然統合することによって、先生の数が、ちょっといわゆる減ってとか、いろんなことが合理的になる部分あると思うんですが、そこもしっかり考えていただきたい。</p> <p>もちろん減価償却的なものもあると思うので、それが本当に経済合</p>

<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>理性に合ってるのかっていうのを、ぜひご検討いただきたいのと、早くしないと、さっきも、もう過去のこと言ってもしょうがないんですけど、過去やれることをきっと100%、きっとできていなかったから、今から100%何ができるか。あとやっぱり、これで分断が起きてしまうと本当に良くないし、ややもするとですね、尾道のブランドが揉めると。学校の問題で揉めているっていうのが、メディアを通じていろんなところに発信されるというのは、非常に残念なことで、先程も話した通り、ちょっと移住しようかと、ちょっとあそこ揉めてるから絶対嫌よ、みたいな話になってくるので、その部分のいわゆる教育のブランドっていうのを、しっかり皆さんが醸成していただきたいなというふうに思っております。すいません。押ししてしまいましたが、以上です。</p>
<p>宮本教育長</p>	<p>他によろしいでしょうか。それでは、ここで質疑応答を終了させていただきます。最後に宮本教育長から閉会の挨拶を行います。</p> <p>5 閉会</p> <p>皆様から様々な角度で貴重なご意見やご質問を頂戴いたしました。ありがとうございました。今後、教育委員会といたしましては、関係する6つの小中学校の保護者説明会でいただきました様々なご意見、また現在開催しております4つの地域での地域説明会における様々なご意見、こうしたご意見を踏まえまして、子供たちの安全の確保、子供たちが切磋琢磨しながら学ぶための適正な規模の教育環境、こういった観点から、最終的な判断をさせていただきたいと考えておりますので、どうかよろしく願いいたします。また今後も、教育内容や今日もご心配のお声をたくさんいただきました通学対策等、引き続き皆様からご意見を伺いながら、より良いものになるように、教育委員会としても努力を続けてまいりたいと、そのように思っております。本日は誠にありがとうございました。</p> <p>(20:05 終了)</p>